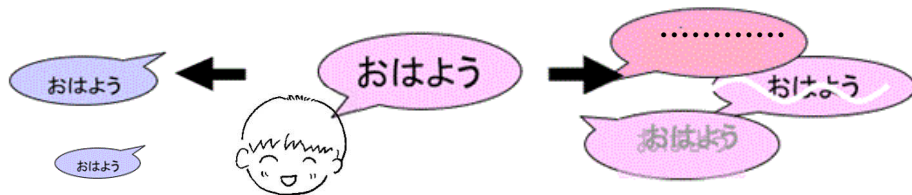


Ⅱ 聴覚障害 ちょうかくしょうがい

Ⅰ. 「聴覚障害」について

Ⅰ) 聴覚に障害がある人とは

- 耳が聞こえない人・聞こえにくい人のことを、聴覚に障害がある人といいます。
- 全く聞こえない人から少しなら聞こえる人、高い音だけが聞こえにくい人など、聞こえ方は人それぞれです。



- 耳鳴りに悩まされている人もいます。

- 聞こえの程度や、何歳の時に聞こえなくなったのか、どんな家庭環境だったのか、通った学校はどこだったのかによって、コミュニケーションの方法もいろいろです。

2) 聴覚に障害がある人たち

◆ろう者

(ろうあ者)



生まれつき、あるいは
ごく幼いときに耳が
聞こえなくなった人たちはです。

◇中途失聴者 ちゅうとしつちようしゃ

病気や交通事故、大きな音の聞き過ぎなどで、
それまでは普通に聞こえていたのに突然聞こえなくなったり、少しずつ聞こえなくなったりした人たちはです。



◇難聴者 なんちようしゃ



聞こえにくい人たちはです。生まれつき
難聴の人がいれば、病気になったり
高齢者になったりしたなどの理由で、
聞こえにくくなった人たちもいます。

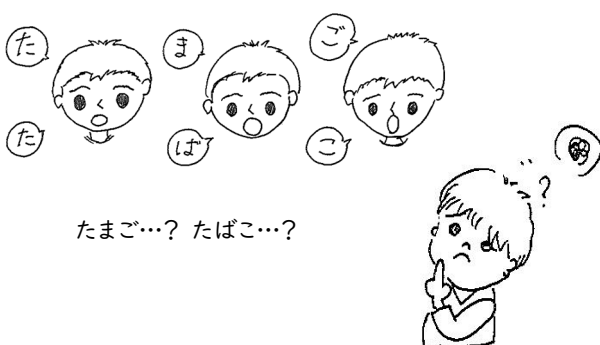
3) よく使うコミュニケーション方法・聞こえを補う方法は？

聴覚に障害がある人たちは、相手や場面に^{おう}応じて、その時その場で利用^{りよう}できるコミュニケーション方法をすべて使います。横や後ろから話しかけられると聞こえず気がつかないので、そっと^{かた}肩をたたか、顔が見える所まで来てくださいね。一緒に楽しくお話できるといいですね(へへ)



○ 読話 (口話)

相手の口の形や動きを見て、言葉を読み取る方法です。



○ 補聴器・人工内耳 (聴覚利用)

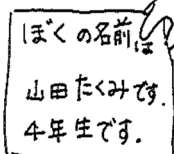
補聴器は、音を大きくして聞こえやすくする機器です。耳につけて使います。

人工内耳は、音を電気信号にする機器を体内(内耳)に埋め込み、音を受信する機器を体外(頭部)に付けて使います。ただし、聞こえにくさの程度が大きい人は、これらの機器を使用しても音を言葉として聞き取ることが^{むずか}難しいです。



○ 書いて伝える (筆談)

紙や手のひらに、文字などを書いて伝える方法です。他にもパソコンや^{けいたい}携帯電話・スマートフォン・タブレット、OHC等を使って伝える方法もあります。



○ 空文字 (空書)

空中に文字を書いて、伝える方法です。

文字を裏返しに書くのではなく、紙に書くときと同じように自分から見て分かるように書きます。



○ 音声による文字入力

パソコンやスマートフォンへ音声で入力した話の内容を画面上に文字に変えて出す方法です。

○ 指文字

指を使って、日本語の五十音を表す方法です。物や人の名前などを表すときなどに使います。

○ 手話

手話は、みなさんが使う「日本語」と^{たいどう}対等な「言語(言葉)」の一つです。

手の形だけでなく、目や顔など体の全てを使います。聞こえない人たちが周りの人と気持ちを伝え合いやすい言葉です。

○ 身ぶり・ジェスチャー

日常よく使われるしぐさや、ものの動きなどを体全体使って表現する方法です。



2. こんな生活を送っています

1) コミュニケーションについて

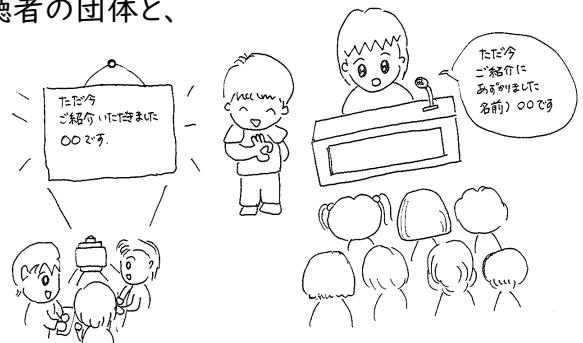
聞こえる人も、聞こえにくい人も、聞こえない人も、コミュニケーション方法はいろいろ。聞こえ方や理解する力も人それぞれ。だから、コミュニケーションの方法も一人ひとり違っていいんです。その場にいる人同士、お互いにとって、楽に話し合えるコミュニケーション方法は何だろう?と考えることが大切です。



2) どんな仲間がいるの?

○同じ障害がある仲間の団体があり、情報交換や交流をしています。都道府県や全国レベルの団体として難聴・中途失聴者の団体と、ろう者の団体があります。

○要約筆記のグループや手話のサークルがあります。知多南部3町にも、各町に1つずつあります。聞こえない人たち・聞こえにくい人たち・聞こえる人たちが集まって楽しく交流したり学び合ったりしています。



○地域の活動や会合に手話通訳や要約筆記(話し手の言葉をまとめ、文字にして伝える取り組み)がつくと、本当の意味で参加(理解)することが可能になります。そこで新しい出会いがあり、仲間の輪を広げることができます。



3) 移動手段について伝えたいこと

○聴覚に障害がある大人の多くは自動車の運転をしています。

○以前の公共交通機関では、事故や到着時間の遅れの情報などの案内が、放送だけということが多く、分からずに困ることがよくありました。最近は駅や車内の文字による情報揭示システムも少しずつ増え、また筆談で対応する人も増え、以前より利用しやすくなりました。

○自転車のベルや自動車のクラクションの音が聞こえないので、道を歩く時は後方からの接近や横からの飛び出しを警戒し、緊張します。

4) スポーツの楽しみ方は？

○耳が聞こえないからできないスポーツというのはほとんどありません。音^い以外^{がい}の方法^{ほうほう}で合図^{ごうず}をしたり、目で状況^{じょうきょう}を判断^{はんだん}する練習^{れんしゅう}を積み重ね^{つみかさ}たりすれば、様々なスポーツを楽しむことができます。聞こえる人たちと一緒に試合^{しあい}をすることもあります。

○4年に1度開かれる「デフリンピック(夏・冬)」という聴覚障害者の国際^{こくさい}的なスポーツ大会^{たいかい}もあります。

※一般社団法人全日本ろうあ連盟^{いっぱんしゃだん ほんにっぽんろうあれんめい}のホームページ内に「デフリンピック」を

詳しく紹介したページがあります <https://www.jfd.or.jp/sc/deaflympics>

5) 食事の場面で・・・

○外食^{がいしき}に行った時^{とき}、例えば店員^{たんにん}さんが紙^しとペン^{ぺん}を用意^{ようい}してお勧め^{すすめ}のメニュー^{メニュー}を紹介^{しょうかい}してくれたり、注文^{ちゅうもん}の内容^{ないよう}を見せて確認^{かくにん}してくれたり、いろいろ工夫^{くふう}してうまくコミュニケーションできるように考えてくれるお店^{みせ}だと、幸^{しあわ}せな気持ちになります。



6) どのようなところで働^{はたら}いているんだろう？

○どうしても聴力^{ちやうりよく}が必要な仕事^{ひつよう}以外なら、聴覚^{ちやうかく}に障害^{しやうがい}があってもできます。知多半島^{ちまたはんしやう}では自動車製造^{じやうたくせいぞう}や住宅設備関係^{じやうたくせつび}、理容師^{りようし}の仕事^{しごと}をしている人が多いです。

○仕事^{しごと}の場^ばでは、「伝え合^{つた}う」ということがとても大事^{だいじ}になります。自分^{みづか}と周り^{まわ}の人たちとの間で、お互^{たが}いにさまざまな工夫^{くふう}・努力^{どりよく}をしあ^はって働^{はたら}いています。その結果^{けつこ}、聞こえる人も含^ふめて職場^{しやば}のみんなが以前^{いぜん}よりもきちんと伝え合^{つた}えるようになった会社^{かいしや}もあります。

7) 学校もいろいろあるのかな？

○愛知県立^{あいちけんりつ}の聾学校^{ろうがっこう}…聴覚^{ちやうかく}に障害^{しやうがい}がある児童^{じどう}や生徒^{せいと}が学^{まな}ぶ学校^{がっこう}。みなさんの住^すんでい^いるところから遠^{とほ}い場所^{ばしょ}にあるので、親元^{はな}を離^{はな}れて寄宿舍^{きしゆくしや}に入^いる子どももいます。

○自分の学区^{がくいき}の学校^{がっこう}…耳が聞こえる近所^{きんしよ}の子^こどもと同じ学校^{がっこう}へ通^{とほ}います。

○その他^{その他}……………特別支援学校^{とくべつしえん}(旧・養護学校^{きやうご})や難聴^{なんちやう}学級^{がくきゅう}のある学校^{がっこう}に通^{とほ}う子どももいます。

8) その他

○日本^{にっぽん}では耳が聞こえにくいために困^{こま}っている人が、7人に1人いると言われています。

高齡^{こうれい}になり、聞こえにくくなる人も多^{おほ}いのです。音声優位^{おんせいゆうい}ではなく、文字^{もじ}や手話^{てわ}や絵^えなどいろいろな方法^{かうほう}で、みんなが情報^{じやうほう}を共有^{きやうゆう}でき安心^{あんしん}できる社会^{しやかい}にしたいですね。

3. みなさんへのメッセージ

『小さなきっかけ』

私は生まれつき片耳が聞こえず、聞こえているもう片方の耳だけで生活しています。しかし、そのせいで小学校の頃は話も半分位にしか聞こえず、周りは何の話をしているのかよくわからないそんな状態でした。そのため、会話が続きなくて差別され始めてしまい、学校に行くのが辛くなり情緒不安定になった時もあります。

でも中学生の頃、福祉実践教室に参加し、そこで車椅子で生活する後天性の脊髄麻痺障害者に出会いました。その方は後天性の為バリアフリー対応ではなく、職場や家の中で慣れているはずの移動ができなくなりそれが辛いと話されました。

しかし、そんな自分の状況をなんとかしようと、何年もしリハビリを続けて、今では足を曲げながらも歩行できている姿に衝撃を受けました。この人は頑張っているのに私は…という自己嫌悪になり、その姿を見てもう少し頑張ってみようと思えるようになりました。

年齢を重ねた今でも会話をするのは大変で、会話をしたくないというときもあります、小さなきっかけで頑張って自分から進んで会話を行うようになり、今では手話や要約筆記の存在を知り、暗く沈んでいた学生時代よりも明るく過ごせるようになりました。

(30代 男性 半田市 成本高永)

昔から、障害者には優しくしてあげなくてはいけないよ、手伝ってあげなさいと教えられたり、そういう気持ちが正しいと思っている人は、今もまだ多いと思います。でも障害のある人と付き合いが始まると、それは違うということにすぐに気がきます。

以前、聴覚に障害がある人と一緒に電車で出掛けたとき、話に夢中になって、降りる駅をうっかり見逃しそうになったことがありました。「ここで降りるのは?!」と教えてくれたのは、アナウンスの聞こえないその方だったのです。聞こえないからこそ、停車ごとに窓から駅名をしっかりと確認されていたからでした。つまり障害があってもなくても全く変わらないということです。同様なことは、他の障害がある人にも言えるのではないかと思います。身体のある部分に何らかの障害があっても、そのためにできないことがあっても、障害がない人ができないことをできるかもしれません。

障害者はできないことが多いと思われがちですが、障害がある・ない関係なく、人は誰でも何らかの苦手なこと、できないことがあると思います。注意力が散漫になったり、気が付きにくかったり。

こう考えると、障害がある人・ない人と二つに分けて考えること自体がナンセンス（意味がない）かもしれません。そのような枠や壁を取り払ってしまえば、もっと人と人との本質的な付き合いができるのではないのでしょうか。

「健常者」「障害者」の区別のない世の中（そのような言葉が存在しない世の中）が、自分の最終目標だと言われた、障害のある方の言葉が心に残っています。

(武豊町 60代 女性)

『耳が聞こえなくてもできることいっぱいある♡』

私は生まれつき耳が聞こえません。聴力が重く、飛行機の音すら分かりません。小さい頃から発音の練習をして、聞こえる人とのお話ができるようになりました。しかし、苦手な発音があると、うまく伝わりません。そのときは筆談や身振りを使ってコミュニケーションをします。

私の同級生にデフファミリー(※)がいました。耳が聞こえなくても結婚して出産、子育てができる。そして車の運転ができる。色々なことができる耳が聞こえないお母さんを見て、将来私もできるとイメージできました。

今、好きな人と結婚して出産して子育て中です。耳が聞こえる人と同じく生活できていますが、わずかに違うところがあります。例えば、朝起きるときの方法や連絡するときはメールやファックスを使うなど、工夫がたくさんあります。その機器が聴覚障害者の生活を支えてくれ、とてもありがたいです。しかし、まだまだ課題がたくさんあります。災害がおきたときの連絡方法や、無人駅での遠隔手話通訳モニターをつけてもらうなど工夫を聞こえる人たちと話し合っって一番いい方法を探しています。

みなさんも手話や身振りに触れあって豊かなコミュニケーション方法を楽しんでみてください。

(知多地区聴覚障害者協議会 会長 上津千雅子)

※デフファミリー 家族全員が聴覚障害者(特にろう者)の家族のこと。

私が「手話」を知ったのは、高校生の時です。平成12年に、手話サークルへ子どもと一緒に通い始めました。週1回でしたが、とても楽しかったし、手話の単語が身についてくることに、ワクワクしました。初めの私の目標は、「ろう者の人と、スムーズに冗談を言えるくらい、笑って話ができるようになる。」でした。

手話を始める前は、「聞こえない事ってどういうことなのか?」、簡単な疑問と思い深く考えもしませんでした。でも、学んでいくと、聞こえないだけの問題ではなく、聞こえないことで、命に関わる情報がわからない、伝わらない等、いろいろな、奥深い問題がかくれていました。

聞こえない人の生活の中で、ほんの一部だけ、手話通訳派遣が頼めます。病院や学校の参観日など。しかし手話通訳者の数も足りません。私は、初めの目標のためには、通訳の技術が必要と思い、勉強して手話通訳者になりました。

皆さんは、学校の授業や福祉実践教室で「手話」を知る機会もあると思います。英語の授業もありますね。英語も手話も言語です。一緒に覚えてみてはどうですか？

私の考える理想の社会は、「みんなが手話ができるようになり、ろう者が、いつでも、どこでも、みなさんとコミュニケーションができる社会になること」だと思っています。

(美浜町 50代 女性)

4. 「^{ようやくひっき}要約筆記」

文字で伝えるコミュニケーション方法の1つです。聞こえる人が、
聞こえない・聞こえにくい人のために、その場で聞いた内容を
「文字」で伝えます。

文字にする速さは話す速さより遅いので、大事なことをまとめます。
これを「要約」といい、「要約筆記」とは話の内容などを
《その場でまとめて文字で伝えること》です。



★こんな方法があります

○ノートテイク 紙に書いて伝える方法



○パソコン画面による方法



○ホワイトボード・黒板による方法



○OHCやパソコンを利用して、チームを組んで たくさんの人に伝える方法



★文字で何かを伝える時、気をつけることは？

大事なこと、伝えたいことを短くまとめて、
正しく、速く、読みやすい文字で書きます。

^{むずか}難しく考えなくても、

とにかく“伝えたい”という気持ちが大切です。



5. 「手話」



「私」



「名前」



(手話や指文字で表現しましょう)



「よろしくお願いします」



6. 「指文字」 ★^{あいて}相手から見た形です。自分の手を^{かがみ}鏡に映すと^{うつ}練習しやすいですよ。^{れんしゅう}

あ	い	う	え	お	濁音(例:ぎ)
か	き	く	け	こ	
さ	し	す	せ	そ	半濁音(例:ぼ)
た	ち	つ	て	と	
な	に	ぬ	ね	の	促音(〇〇っ〇)
は	ひ	ふ	へ	ほ	
ま	み	む	め	も	長音(伸ばす)
や	ゆ	よ			
ら	り	る	れ	ろ	人差し指で「 」か「一」と空書き
わ	を	ん			